平成 27 年度第 1 回南北海道定住自立圏共生ビジョン懇談会議事録（要旨）

日時：平成 27 年 7 月 23 日（木）　13:30～15:10
場所：函館市本庁舎　8 階第 1 会議室

（13:30 開会）

＜企画部長挨拶＞

ご承知のとおり，定住自立圏構想は，「集約とネットワーク」そして「役割分担」の考え方に基づき，地域における共通の課題解決や産業の振興に取り組むことを目的としており，当圏域においては函館市が中心市となって，渡島・檜山管内の１７市町とそれぞれ協定を締結している。

各自治体が取り組む具体的な連携事業については，いわゆる実施計画である「共生ビジョン」に盛り込まれており，これについてはこの懇談会において，協議・検討いただき，お陰様を持って，昨年９月に策定したところである。現在はドクターヘリの運航をはじめ，各種事業が順調に進捗している。

共生ビジョンの計画期間は，平成２６年度から平成３０年度までの５年間となっており，各分野の専門家である委員の皆様より豊富な知見や経験に基づくご意見を頂戴しながら毎年見直しを行っていく。

このたびの懇談会は，昨年に引き続いて７名の委員，さらに，新しく５名の委員，合わせて１２名にご就任をいただいての初回となるが，委員の皆様には，広い観点から闊達なご議論を期待している。

歴史と伝統が息づくこの道南が，将来にわたり「安心して住み続けられる地域」となるよう，本市は中心市としての役割をしっかりと担ってまいりたいと考えており，今後とも皆様のお力添えをいただきたい。

＜座長・副座長選出＞

互選および座長の指名により，座長には南部委員，副座長に坂下委員が選出された。

＜議　　事＞

（南部座長）今回，新たに委員に就任された方もおり，また，圏域の資源を活用し，連携をより一層図るための新しい事業についての意見交換も予定されている。議題に入る前に委員の皆様から自己紹介を兼ねて，それぞれの分野や地域の課題・現状などを伺いたい。

（坂下副座長）昨年に引き続き，南部座長とこのような大役を引き受けた。昨年度は函館

市医師会の豊島前事務局長と一緒にこの会議でいろいろと意見を申し述べてきたが，今回は新しい吉﨑事務局長が就任されており，昨年同様よろしくお願いしたい。個人的には江差町の佐々木病院の事務長をしている。今は院長が檜山医師会の会長をしており，事務局がその病院にあるということで，檜山医師会の事務局長という立場で参加させていただいている。事業の中身について，医療情報の共有化など，まさに私どもの病院も携わっている事業もあり，この一年についてもいろいろと意見を具申したい。

（吉崎委員）昨年の６月に前任の事務局長であった豊島が定年退職となり，後任で函館市医師会の事務局長を仰せつかっている。１年ほどしか経っていないので，力不足のところもあろうかと思うが，協力していきたい。

この渡島・檜山管内の道南圏は，函館市内を管轄する函館市医師会のほか，檜山医師会，渡島医師会，北部檜山医師会の４つの医師会が管轄しており，お互いに地域医療の充実のために協力し，連携を取りながら活動している。

（三浦委員）函館の観光概要についてお話させていただく。平成２６年度の観光入込客数は，国際便の増加，インバウンドの好調，冬季の観光振興に力を入れてきたことにより，４８４万人ということで，前年に比べ２万１千人増という結果となっており，今年においても好調を続けている。新幹線開業に向けた青森県・函館デスティネーションキャンペーンや，今週末にはＧＬＡＹのライブが開催されることになっている。

インバウンドについては，天津－函館便の定期便化で週２便が運航されているほか，今月から北京－函館便の定期便が就航した。また，台湾便については１９９７年から誘致してきたが，現在，週１０便体制であり好調な推移を示していると考えている。

新幹線開業後は，多くのお客様においでいただけるものと想定しているところであるが，これらのお客様に，一過性に終わらせることなく，何度もおいでいただくためには，やはり市民総出のホスピタリティが重要と考えているので，拡充に努めていきたい。また，新幹線開業後のターゲットについて，首都圏であることは間違いないが，それと共に，仙台以北のお客様をいかに誘致していくかが今後のキーワードになっていくものと考えている。また，東京より南の地域で，仙台空港に発着している地域から飛行機で仙台ｉｎしていただき，新幹線に乗り継いで，函館までいかに来ていただくかということも検討する必要があり，今後，積極的に取り組んでいきたいと考えている。引き続きよろしくお願いしたい。

（池田委員）北海道国際交流センターは渡島・檜山管内をはじめ，北海道全域で留学生のホームステイなどを行っている。現在６１名のアメリカの学生が来日し，日本語を学ぶというプログラムを２か月間実施しているところ。函館を中心に国際交流を行っているが，南北海道の地域でも，例えば七飯町で海外のボランティアと共に湖をきれいにするという環境分野での活動をしたり，今年から江差町に生活困窮者自立支援事業の相談窓口を設け，

いろいろな人の対応をするということも行っている。このため江差町や振興局をはじめ檜山管内にはよく行っていて，渡島・檜山がすごく身近になっている。

（出羽委員）前職は町職員で，平成２４年に両親の介護のために早期退職した。町職員の現職であった平成１５年，１６年に，町からの派遣で商工会の事務局長を２年間経験したこともあり，縁があって，今年，商工会の事務局長になった。今回の委員就任にあたり，経験不足の面での懸念もあるが，西部４町では広域連携という協議会を作っており，地域の問題点についていろいろと協議をしているので，そちらとも相談しながらビジョン懇談会で意見を述べることができればと思う。よろしくお願いしたい。

（岡田委員）知内観光協会では今年の事業として，食と観光をテーマに知内町にある特産品の牡蠣やニラ，ホタテ，マコガレイ，トマト，アユなどを観光商品化しようとして頑張っている。

（岩島委員）前年度まで森町の商店会の会長をしていたが，若手がかなり育ってきたので早めに身を引いて会長を譲った。現在は「もりまち食 KING 市」の実行委員長として森町の名産名品を広く道外にもＰＲする行動をしている。食 KING 市も６年目に入り，半分以上が函館など町外から来ていただくお客様となり，森町の名品もかなり分かっていただけるようになった。

個人的には会社の代表取締役であり，３．１１後の２０１４年に，自然再生エネルギーに興味を持って，１．２メガの太陽光発電所を個人で所有する新事業を始めた。基本的な事業は衣料品店で家内に任せている。また，第２事業部では，友人の外科医院と実の弟の歯科医院によるメディカルの総合的な経営もしている。よろしくお願いしたい。

（平野委員）八雲にはパノラマ道立公園があり，観光物産協会ではそこに丘の駅という情報交流物産館を持っている。近隣町村の観光や物産などを皆さんに知っていただくための施設で，近隣の物産関係の販売をさせていただいている。観光物産協会としては，八雲町のまちづくりや業者の商品のクオリティーを上げたいという思いで経営をしている。

道南の中で八雲は，観光の部分ではあまり知られていないと思うが，皆さんにもっと知っていただくため，一生懸命まちづくりの動きをしている途中にある。皆様からアイデアなどがあれば，お話しいただきたいと思っている。よろしくお願いしたい。

（今泉委員）おそらくこの中で，唯一道外出身者だと思う。群馬県出身で，東京に勤務している時代に，現厚沢部町長と縁ができ，３年前に厚沢部町に移住してきた。今，観光協会を任されていて，道の駅の運営をしている。リニューアルして２年目になるが，売り上げも好調に推移しており，これからどういう攻め方をしたら良いかということをいろいろ

考えている。観光とまちづくりを結び合わせていき，厚沢部町を元気にできないかと思いながら日々活動している。また，東京に地域おこし協力隊のＯＢチームで作った一般社団法人を持っていて，地方創生のメンバーも入れて，国と話をしながらこれから何ができるかということも同時に進めている。北海道のことをまだよく知らない人間ではあるが，よそ者目線で頑張りたいと思う。

（松本委員）檜山北部でハイヤー・タクシー，貸切バス，路線，旅行業を営んでいる。今回は，今金町からご推薦いただき委員に就任した。今金町は平べったい丸い町で，真ん中に一本国道が通っている。少子高齢化が進み，人口自体もどんどん減少している中で，住民にどういった足を提供していけば良いのか，また，どういうニーズを持っていて，二次医療圏の八雲や三次医療圏の函館の病院まで，どうやって運べば良いのかということを役場と一緒に取り組んでいる。具体的にはフィーダー路線という枝葉で，不定期にハイヤーも使い，１人，２人でも運ぶという，軒先から目的地までの路線に取り組んでおり，現在，今金町の半分以上をカバーでき始めたところである。地域の実態に応じた足の作り方という視点からの発言が多くなると思う。

（南部座長）道外出身で，２００５年にはこだて未来大学に着任し１１年目になる。函館に来て３年か５年頑張って，業績を積んで東京に戻るという野望を持っていたが，３年くらい経った時に，あまりに未来大も良かったし，函館のことが好きになってしまい，今はもう自分のこの先の人生をこの土地でどのように作っていくか，この地域の中でどうやって生きていくかということを本気で考えるようになっている。

専門は心理学で，コミュニケーションの心理学をやっていたが，未来大に来てどんどん発展していき，今は主に医療分野，医療の現場において，コミュニケーションで医療の質や安全を高めていく。患者さんにとって良い医療は何か。患者さんが安心し，納得できる医療を受けるために何が必要かということを医療現場のかたと一緒に研究しているところ。特に最近関心を持って研究を始めたのは，認知症ケアの現場に対して，心理学あるいは社会学の視点から何ができるかということ。函館市内の高橋病院を中心として，いろんな病院に協力をいただき，学生を連れて現場に入りながら，若い人たちと共に道南の未来を考えていきたいと思っている。

今回，再びビジョン懇談会の座長を仰せつかり，大変光栄に思っている。去年，この会を経験し，それぞれの持ち場で自分の目の前にある仕事をしっかりこなすということはすごく重要なことだが，それだけではなく，このような場の中で，他の人が何をやっているのか，他の地域でどんな取り組みがあるのかということを知るだけでも，緩やかにつながっていけるということを実感した。若輩者だが，皆様にいろいろ教えていただきながら進めていきたいと思う。よろしくお願いしたい。

【議題１】　事務局より資料に基づき説明
（意見・質問等　なし）

【議題２】　事務局より資料に基づき説明

（南部座長）こちらに挙げられている１１事業以外に，着手はしていないが，準備をしているという事業もあるのか。

（事務局）共生ビジョンに掲載されている主な事業の進捗状況は，ご説明させていただいたとおりとなっている。次の議題にも関わってくるが，今後の連携事業として提案をいただいている事業の中で，公共交通にかかる事業について，現在，各連携市町への照会等，調査をしているところである。

【議題３】　事務局より資料に基づき説明

（南部座長）共生ビジョンに記載の文言が大きく変わる。あるいは協定分野の追加という事項がなくても，ビジョンの変更というのは毎年行うものなのか。

（事務局）共生ビジョンは，必要に応じて変更を行うものであり，毎年ローリングで予算・決算の状況による事業費の見直しや事業の追加・削除を行うため，変更が出てくると考える。

【議題４】　事務局より資料に基づき説明

（南部座長）去年出た意見を整えて，分野別の事業という形を作った。そこに皆様の夢やアイデアを伺い，これを広げていく，あるいは柱を新たに立てていくということができればと思う。それぞれの分野・立場から，意見や提案をいただきたい。先ほどの進捗状況と資料９を合わせて振り返って見ると，医療や交通の分野に関してはいろんなアイデアが出て，事業が進んでいる状態に見える。それに対して，人づくりやまちづくりなど，ネットワーク，人と人との結びつき，人材交流というところについてはこれから具体的に考えていく段階なのかなと思う。

（池田委員）資料９の圏域における国際化の推進だが，第三国定住を取り入れたらどうかということを，昨年，提案させていただいた。初めてのかたもいらっしゃるので，再度説明したい。例えばミャンマーの難民が，タイやマレーシアの劣悪な環境の難民キャンプにいる。その人たちを第三国で受け入れるというのが，第三国定住。これは内閣官房が取り

組んでいる事業で，日本では毎年１０名から最大３０名くらいを受け入れているが，主に首都圏が中心になって行っている。こういった人道支援的なことをこの地域で行うことができないか。総数では最大３０名であるが，家族にすると５か６。それがなかなか北海道に来ていない。現在，難民といわれている人たちがたくさんいる中で，人道支援とともに異文化の人を受け入れるということを行ったらどうかということで提案させていただいた。

もう一つ，海外からの若年層の受け入れについても推進したほうが良いと思っている。当団体では，毎年たくさんの留学生を受け入れ，ホームステイを行っている。日本に来ている留学生の７割以上は中国から来ており，観光業という別な視点で考えると，中国語，日本語ができ，もしかすると英語も話せる人たちを活用する機会も出てくる。北海道に来たい中国の人を中心に，インターンや企業などで受け入れができれば，観光業などの地域の産業にもしっかりと影響力のある形での国際化の推進になると思い提案させていただいた。

（南部座長）二つの提案は，セットで考えなければならないものか。

（池田委員）別なものである。第三国定住は国がやっているもので，まず，これは国が受け入れるかどうかによって決まること。なかなか自治体の単位では言えないことがある。ただ，国の制度の下で，難民条約といわれる人たちを受け入れているところはたくさんあり，福祉分野とも近いものがあって，言葉が通じないというある意味，弱者を受け入れることによる，きちんとしたルール作りや整備が行われるという意味では，企業などの組織にとっては良いことだと思っている。これが一つの提案で，もう一つは観光分野などで中国のかたに働いていただけるような形がとれないかというもの。

（南部座長）それぞれについて地域でやるべきこととして，例えば就職斡旋みたいなことになるか。

（池田委員）どちらについても企業などの組織のかたに，積極的に受け入れたいという要望があれば，当団体で持っているネットワークでつないでいでいけるのではないかと思う。

（南部座長）分野毎にばらばらに事業を考えてしまいがちだが，話を伺っていくと，要素はつながっているように思う。今の例でも，中国からの留学生がそのままここで観光業についていただけるとみんなに良い状況が作れるようにも思うし，また，そのためには人材育成や交流といった機会を作っていかなければならない。さらには，自己紹介の際にいただいた，おもてなしとかホスピタリティという言葉に対しては，このような留学生受入れをきっかけに，観光にも関わって，受け入れる側の市民がおもてなしの気持ちを持って臨めるような地域になっていければと思う。

それぞれの地域の課題やニーズ，あるいは各分野で何か解決したい課題などあれば発言いただきたい。ビジョン懇談会の良いところは，実現可能性はとりあえず置いておき，いろんな種をまいていけることだと思う。

（平野委員）中国人の受入れという問題だが，現実，八雲の丘の駅にいらっしゃるお客様のおよそ８０％は外国のかたである。昨年度は八雲に住んでいた台湾出身者に商品の説明など通訳をしていただいた。そのことで商品について理解され，購買欲が出るという結果があった。ただ，そのかたについては，就農のため辞めてしまった。中国もしくは台湾のかたで，通訳をしながら働いていただける人を探しているが，狭い八雲という地域の中で，住んで働いていただけるような人を見つけるのは難しい。

観光業のほか農業についてもやりたい，少し勉強したいというかたがいれば，受入れはしやすい状況にはあると思うが，人材教育の部分を八雲の中で行うのはなかなか難しい。通訳が足りないということは，現実的に困っている。

（南部座長）函館市で，小規模ではあるが観光業のかたを主な対象として，中国語講座をやっていると聞いたことがある。そのような中国語を学ぶ機会はないのか。

（池田委員）観光に関わる中国語ということでは，去年，単発だったが英語と中国語で観光案内に関わるガイド養成講座というものを開催した。英語で５０名，中国語で２０名の参加があった。日本人の参加者が多く，それだけ観光に関心があり，中国語，英語を話せるかたがいるということを初めて知った。もっと勉強会のような形式で，本格的にやっていくと掘り起しできるのではないかと思う。

（今泉委員）例えば中国から来た留学生に，夏の一番忙しいシーズンの１，２週間だけでも，こちらで宿泊先を用意し，手伝いに来てもらう。そのような人材バンク的なものがあれば良い。そのことをきっかけにお互い良い関係を築き，緩やかなものからつながっていって，定住に結びつくということができないかと思う。また，中国では日本の介護を学びたいという需要もあると聞いており，中国の人たちとつながっていくのは，いろいろな形に発展していくのではないかと思う。

（平野委員）７月，８月，９月の３か月間は，多くのお客様がいらっしゃるので，八雲周辺の情報をきちんとお客様に話ができることによって，八雲だけじゃなく近隣にも行ってみたいということになる。近隣８町村で広域観光連携協議会を組織し情報も持っているが，外国のかたに対しては，通訳がいなければ相手が何を言っているのかわからないし，もっと教えたいところがあっても伝えられずもどかしい感じで，そのうちにお客様は帰ってしまう。広域観光の推進の部分にも当てはまると思うが，通訳の確保ができれば，もっと地

域を知っていただくことができるのではないかと考える。

（今泉委員）周遊バスも走っているが，そのガイドさんが話せるかたであれば，もっと違う展開があるのではないかと思う。

（坂下副座長）医療と福祉の連携ということが盛んに言われている。医療的にはもう治ったが，そのあとの生活はどうしたら良いのか。江差町では，勤医協の大城先生が中心になって，医療関係者と福祉関係者が密に連絡を取りながら，その人にとって最善の療養後の居場所を提供するという動きが出ている。これからは横の連携が重要であると考えている。江差町のほか檜山では広域的にケアマネージャーなども参加して取り組んでいる。医療の分野として，今後，福祉と絡めた切り口での事業展開をビジョンで取り上げることができればと思う。

（南部座長）動き出して具体的な問題や難しさはあるか。

（坂下副座長）月に１回は関係者が集まって会議等々をしている。そのような場が各地域にあると，例えば地域から都会の施設に行くようなこともなく，自分の育った地域でずっと暮らせるといった方向性も考えていけるのではないか。地域に住み続けられるといった定住策にもつながるようなことができればと思う。

（南部座長）福祉の話はこれまでほどんど出ていない。医療の話では，１年目にドクターヘリを華々しく取り上げた。福祉はこれからいろいろなアイデアを出していただくことになると思う。今回，持ち帰っていただき，それぞれお住まいの地域において，具体的なニーズや課題が見えてきたら，今後，情報共有いただきたいたいと思う。

（松本委員）資料９の地域公共交通に関わり，今金町と東ハイヤーで取り組んでいる事業がある。山村のように人がぽつぽつとしかいない地域において，お年寄りをどうやって病院まで運ぶかという課題について，ハイヤーを使うがハイヤー料金ではなく，路線の料金で函館バスにつないだり，あるいは町内の病院まで届けるというような取り組みを行っている。

少し専門的な説明になるが，ハイヤーは，地域，料金，台数を決めて，それで皆さん経営が成り立つでしょうというやり方。一方，路線バスは，基本的にここからここまでは必ず走り，それで料金的に見合わず赤字が出た分に関しては，補てんするという考え方で運行されている。事業許可には，ハイヤー・タクシーの一般乗用。一般乗合という路線の免許。観光バスの一般貸切という３つの免許がある。ただし路線の運行車両については，バスに限られていないものであり，ハイヤーを使い，路線車両として特別な路線免許のもと

で，実証運行を行っている。本来，ハイヤーはメーター料金を取らなければならないので，お年寄りの家から病院まで，数千円というメーター料金になる場合もあるが，そういう路線を引き，路線料金は初乗り２００円というルールを決めると，２００円でハイヤーを使っていただける。ケースによっては，バスを出すとかなり赤字になるので，ハイヤーを乗合用として走らせ，路線車両として入れていくという方法をとっている。

路線というとバス路線のことを考えるかたは多い。地域バス路線の維持・確保は，交通基本法の中で地方公共団体の責務とされており，また，計画策定も義務付けられているが，資料９の地域公共交通の検討事業と取組内容については，記載を逆にするのが良いのではないかと思う。地域バス路線の維持・確保という従来の国の施策からもう一歩踏み込んで，地域公共交通維持・確保を取組内容とすることで，人口減少により路線バスではなかなかもたなくなってきている中，中核都市とどう結びつけていくか。あるいは各地域で定住化をきちんと進めていく方策として，ハイヤーやバスのほか，役場が持っている白ナンバーの患者バス，福祉バスといったものも組み合わせながら工夫し，地域公共交通を改善していくことが高齢化の時代に必要であり，内容として前進したものになるのではないかと思う。

（南部座長）確認だが，バスにこだわらないやり方は，全国的にあることか，それとも先進的な取り組みなのか。

（松本委員）おおもとの法律が，大型バスに限っているわけではないが，昭和から平成のはじめまでの非常に人口が多かった時の交通体系ではそれがベストだった。今の人口動態からは，そういった車両を使うことについて，市町村単位である程度任せるということに運用が変わってきた。それで，今回の取り組みではオンデマンドによりハイヤーを動かすというやり方で，地域住民の足を確保している。バスを路線で走らせると，お客様一人で４００円ということもあって，空気を運んでいると文句を言われることもある。一方，ハイヤーで送ると，数千円のところが２００円で済み，お礼を言われる。燃料代は安くつき，トータルのコストでも安くなっている。そういう工夫をしていくのが，この地域の高齢化に合った対応ではないのかと思う。

（南部座長）現状の事業では，病院に行く以外にも生活の足として使われているのか。

（松本委員）事業のきっかけはスクールバスだが，生徒数の減少により不安があったことで対象を拡大した。高校生も乗せることとし，高校生は基幹道路に行って函館バスとつながって学校へ通うことができる。次に病院，スーパーに行くのにも頼まれるようになり，そして，長万部や八雲，函館へ行くための利便性も高めることができた。

（南部座長）知内の岡田委員に食と観光の話をしていただいたが，道南の魅力の一つに食があると思う。いろんな課題や取り組んでいることを伺いたい。

（岡田委員）アユに関しては知内川でもっとアユが釣れたら良いのにという思いがあり，天然のアユが遡上してくるのに合わせて，函館のアユ釣り同好会の方々と一緒に，数年前から放流事業をしている。知内川のアユをもっとみんなに知ってもらおうということで，今度の日曜日に初めて「アユ祭り」を開催することになっている。

他に，トマトについては，単に売るのではなく収穫体験ができる専用の畑を作り，函館などの団体に声をかけて，収穫体験をしていただけるような計画を進めている。

（南部座長）観光と言えばどうしても道外から来てもらうという話が先行しがちだが，この知内での取り組みのターゲットはどこか。

（岡田委員）現在は，道内の函館や札幌周辺からお越しいただきたいと思っている。ただ，新幹線開通後は本州方面へもＰＲすることになるのではないか。

知内町の牡蠣は人気商品だが，町内で食べることができる場所が少ない。生活から離れた，遊び心のある観光レストランのような施設が必要だと思う。町でもそのような施設の整備を考えているようだ。

（岩島委員）資料９の２ページ目に国内から若年層を受け入れ，将来的に移住者候補にという項目があるが，今泉委員は３年前に群馬からいらしたとのこと。座長も東京から函館にいらした。外部からの意見や視点というのは，非常に地元にとっては大事だと思う。実際にこの渡島・檜山に住んで，どのような評価を持っているのか伺いたい。

（今泉委員）住みたい場所の条件に，水がきれいなこと，食べ物がおいしいことの２つがある。厚沢部の前は島根県にいたことがあったが，日本で一番きれいな川が流れている源流のまちだった。北海道もそれに近く全部湧水というまちもある。当然食べ物は本当においしく，道の駅をやっていることで，農家さんが野菜を持ってきてくれる。ほどんど野菜を買う必要がない上に，普通に新鮮な朝どり野菜を食べることができる。また，海も近いので，海産物も手に入りやすい。すごく豊かな生活を送っていると思っている。東京にいたときは，地下鉄の満員電車に乗るのが嫌で，こんなところで死ぬのかと思ったこともある。汚い空気と，まずい水と，座る場所すら全部有料といったようなあの空間では生きられないと思いながら過ごしていた。今は，いたって健康な生活を送っている。すごく幸せ。都市部に行きたいと思えば函館まで１時間で来ることができるし，函館から東京へは飛行機ですぐ行ける。非常に便利な場所だと思っている。島根のほうが交通が不便で，陸の孤島だった。北海道は意外と便利だと思う。特にこの函館圏，定住自立圏のまちの人たちは，

そういう点で，良い生活だと思う。不満はない。ただ，仕事という点で，若者が働く職場がないということについては，これから創造していく必要やいろんな課題があると思う。

（岩島委員）地域の受入れについてはいかがか。

（今泉委員）ある高齢者事業で移住したが，突然，厚沢部町に入ってきたので，初め周りの人としては，接し方が分からないということはあったようだ。ただ，自身は基本的に人が好きなので，いろいろな人に話しかけるうちに打ち解けていったと思う。一段構えるのはどこの地域も一緒だと思うが，自分のコミュニケーションの取り方次第で，どんどん障壁が下がってきて，相手もすごく親身になってくれるというのは，厚沢部だけではなく，北海道の人の気質なのかなと思う。とりあえず玄関に入れていただける。ご飯食ってけ，飲んでけと言われることもあり，そういう意味で北海道は豊かなんだと思う。

（南部座長）函館に来て１１年目になったので，外の視点がなくなっているかもしれないが，たまに人から言われて思うのは，函館，この道南に住んでいると当たり前のクオリティーが高いということ。特に食に関して，普通に買っているもののクオリティーがすごく高い。でも，ここに住んでいるとすごいことだと気付けないことがある。例えば，ある日の食卓は，近所の農家さんで買ってきた野菜をはじめ，この地域の物しかなかったといった豊かなことがある。それが当たり前過ぎて，本州から来た友達に良い生活をしていると言われて初めて気付く。食の関係でいくつか話をいただいた。道外の人に向けて，道南はこんなに豊かだと言うことも大切だが，道南に今，住んでいる人たちが，これは実はすごいことだということを再発見・再認識できれば良いなと思っている。一回外に出てみると，函館は良かったと思えるが，長くいるとこのクオリティーの高さが当たり前になってしまう贅沢さがある。

地域に入っていくという点で言うと，子供を持っていないと地域に入って行きにくいということはある。努力して，例えば地域の人と交流をする場に一生懸命出かけて行くようなことをしないと，いきなりコミュニティに入って行くのはなかなか難しい。ただ，きっかけさえつかめると，高齢者のかたなど，ちょっと話をするとすごくよくしてくれるところがある。世代間交流の仕方で，家族がいたりあるいは子供がいなかったとしても，すっと入っていけるような仕組みがあれば良いなと思っている。最近，犬を飼い始めて散歩をするようになったら，急激に地域の人たちと立ち話をするようになった。やはりきっかけは重要だなと思っている。

未来大の学生は本州や九州からも来ているが，みんな仕事さえあれば残りたいと言う。ここが好きになったという人がたくさんいる。できるだけ未来大のコンテンツを使って，起業なりいろんな形で仕事を作っていくということをしていきたいと思っているが，なかなか難しいところがあり試行錯誤している。たくさんの学生がここに住みたいと言ってい

る。

（岩島委員）１５年以上前になると思うが，この道南圏，渡島・檜山を気象庁と当時の渡島支庁が日本のイタリアと位置付けた時期があった。イタリアのナポリと森町が同緯度で気象条件も非常に似ている。渡島半島を日本のイタリアに見立てた。北海道の中でもこの道南圏は特に気候，食に恵まれ，歴史，文化に育まれた土地だと自負している。最近では，医療の部門で，函館市が高齢者移住の候補地に挙げられるといったニュースもあった。北海道新幹線が来年３月に開業すると，関東圏から３時間半で北海道，函館に来ることができるようになる。この地域の恵まれている部分をしっかりとＰＲし，定住につなげていけるような手法を考えていきたい。非常にチャンスであり，他の地域に遅れをとらないよう，この道南をまとめていきたいと思う。

（南部座長）皆様の意見や提案を伺ったところであるが，一旦，それらを自分の中で温めていただき，日々の生活の中でも思いつくことがあれば，是非次回の懇談会で合わせて意見を頂戴したい。

（事務局）
次回開催日程について
　・９月下旬を予定
次回会議内容
　・追加事業も含め，ビジョンの変更案をお示ししたい。

（南部座長）今回は新年度１回目ということで，皆様の自己紹介の内容を大変興味深く聞かせていただいた。良いウォーミングアップになったと思う。今回の議論を第２回目につなげていきたい。本日はこれで閉会とする。

（15:10　会議終了）